

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 目的や条件に応じて話し合おう ～一年生ともっと仲よくなろうの会に向けて～

2 単元の目標

◎ 思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。

【知識及び技能（1）オ】

○ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。

【知識及び技能（1）ア】

◎ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

【思考力・判断力・表現力等（1）オ】

○ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。

【思考力・判断力・表現力等（1）ア】

○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。…（1）ア ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。…（1）オ	・話すこと・聞くことにおいて、目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。…A（1）ア ・話すこと・聞くことにおいて、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。…A（1）オ	・言葉を通じて積極的に人と関わり、目的や条件に応じて、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとしている。 ・学習を通して学んだことを今後の生活に生かそうとしている。

4 単元について

（1） 本単元で行う言語活動と教材

本単元では、学習指導要領「A 話すこと・聞くこと」における言語活動例「ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」を受けて、「一年生ともっと仲よくなろうの会」で行う遊びを、話し合いを基に決定し、実践する活動を設定する。

本教材は、「目的や条件に応じて話し合う」と、「計画的に話し合う」ことをねらいとした単元である。目的や条件に応じて話し合いをする力をつけるために、二種類の話合いを行う。一つ目は「考えを広げる話合い」である。理由や根拠とともに自分の意見を述べたり、互いの意見に対して質問し合い、利点や問題点を明らかにしたりする。二つ目は「考えをまとめる話合い」である。それぞれの意見の価値を認めうえて、よりよい結論を導くために、目的や条件に照らして検討する。

児童はこれまでに、5年生で立場を明確にして計画的に話し合うこと、6年生になって、立場の異なる人の話や、いろいろな考え方を聞いて、自分の考えを深めることを学習してきた。国語の学習以外でも、学級活動で月目標を決めたり、クラスのルールについて話し合ったりしてきた。これらの経験から、計画的に話し合うことや、友達の意見を聞いて自分の考えを広げるよさについては理解しているようである。しかし、人数の多い話し合いほど、発言者に偏りがあったり、最終的に多数決で決定したりする場面も見られる。

そこで、まず学習の導入ではこれまでの話し合いを振り返り、うまくいったときといかなかったときの違いを考えたり、うまくいかなかった原因を考えたりする。そうすることで、「みんなが納得のいく結論を出すためには、どうしたらよいか。」という課題意識が生まれる。

議題は「一年生ともっと仲よくなろうの会」で行う遊びとする。一年生とは入学式の日から、朝の支度や給食の片付け・休み時間等のさまざまな場面で交流してきており、それに対して意欲的に取り組む児童が多い。しかし、最近は行事や暑さが理由で、関わる時間が少ない。卒業まで残り半年というこの時期に一年生との仲をさらに深めることで、誰かに喜んでもらうことへの喜びややりがいを感じられる議題でもある。児童は自分事として、積極的に学習に参加できるのではないかと考えた。

一方で、「一年生と何をして遊ぶか」だけにしてしまうと、多様な意見が出た場合、集約しにくい。そこで、「交流を通して、お互いが楽しみ、仲が深まる遊びを考える」という目的を設定する。一年生にとっても自分たちにとっても楽しめるものという目的を意識することで、自分の立場や意図を明確にしたり、よりよい結論に向けて意見をまとめたりすることができるだろう。

最終的に結論を出す際には、互いの意見を否定したり、安易に多数決で決定したりすることがないようにしたい。自分の意見が採用されるかではなく、各自の意見を基にしながら、それらを組み合わせたり、ブラッシュアップさせたりしてよりよい結論を導くことを強調していく。また、話し合いの前に本教材に付随するコラム「伝えにくいことを伝える」を活用して、相手を尊重する思いをもち、表情や口調に気を付けて表現することの大切さを全体で共有する。誰もが意見や考えを伝えやすい雰囲気づくりもしていきたい。

(2) 本単元で身につけさせたい力

【身につけさせたい力について】

本単元では、「一年生ともっと仲よくなろうの会」で行う遊びを議題とし、主張・理由・根拠を明確にして自分の考えをまとめ、伝えること、よりよい結論のために目的や条件に照らして話し合い、試行錯誤しながら協働的に解決策を見出す力を身につけられるようにする。

さまざまな意見があることで、幅広い視点で検討できるよさを感じられるようにすることや、客観的に比較しながら意見を検討できるようにすることで、協働的な学びへつなげたい。

【手立てについて】

①グルーピング

話し合いのグループは全6グループ、1グループ当たり3～4人で編成する。少人数にすることで、発言の機会が平等になったり、大人数で行う時よりも話しやすく、リラックスした雰囲気での話し合いが進んだりすることが考えられる。さまざまな考えに触れることができるようにするため、グルーピングは児童の主張を踏まえたうえで教師が行う。6グループ構成とすることで、AグループとBグループのようなペアグループが3組できる。話し合いをペアグループ同士で見合うことで、下記の②のような効果が

期待できると考える。

②ペアグループによる話合いの見学

話合いを客観的に振り返るため、また、自分たちの話合いを進めるときに有効な発言や進行の仕方について考えやすくするために、話合うグループとそれを周りで見ているグループに分かれる。見ているグループは、どのような観点で話合いを見学すればよいかという視点を示す。話合い終了後に、見ているグループからもよかった点を伝えることで、よりよい振り返りを行うことができると考える。さらに、話合いグループと見学グループ間で1対1のペアを作る。話合い終了後に見学者側は自分のペアに話合いでよかったところを伝える。そうすることで、話合いにおける自分の価値を認められた安心感から、自己肯定感を高め、話すことへの意欲が伸びるだろう。

③話合い活動の表現の共有

思考に関わる語句を増やし、話合いで活用できるように、話合いで効果的な表現についてあらかじめ全体で確認し、共有する。みんなで確認したものは掲示物として見えるところに貼っておいたり、話合いの最後に、表現を使って話合いに参加できたかを振り返ったりすることで、意識的に使えるようにする。

④ギガタブの活用

○表での提示…自分の主張・理由・根拠をまとめたり、述べたりする際に、ギガタブで作成した表を使用する。表の枠は教師から提示する。そうすることで、自分の考えが整理されやすく、話合いの際も表を見ながら話すことができるので、全員が安心して自分の意見を述べることができるだろう。また、聞き手も、視覚的な支援があることで、内容をより理解しやすく、自分の考えと比較しながら聞くことができると考える。

○話合いの録画…ギガタブを使って話合いの様子を録画しておく。振り返りの際に自分たちで見返すことで、よい点や改善点を見つけやすく、共有もしやすい。よい話合いは全体でも取り上げることで、学級としての向上にも役立つだろう。

⑤思考ツールの活用

○ピラミッドチャート…自分の考えを整理するときに用いる。ピラミッドの一番下に思いつく考えをできるだけたくさん挙げる。目的や条件に合ったもの、根拠と理由が明確なものを上の段に上げていき、内容を精査していく。1番上の段に自分の最終的な考えがくることで、自分の考えを明確にし、主張につなげていく。

○位置づけ…考えをまとめる話合いの際に、ギガタブ上で座標軸と付箋を用いた位置づけを行う。目的と条件の両方を満たした結論を導くために、客観的でわかりやすい形である。ギガタブで行うことで、加筆修正もしやすく、全員が見やすいという利点もある。

(3) 本単元を支える日常的な言語活動

① 日直のスピーチ

朝の会の中で、日直のスピーチを取り入れている。スピーチはテーマに沿って行い、児童にとって「面白そう」「話してみたい・聞いてみたい」と思える内容になるよう留意する。テーマは「好きな給食」のように、ある程度回答が自由なものから、「夏と冬だったらどちらが好きか。」のように自分の立場をはっきりさせて話すものなど、さまざまな形で行う。そうすることで、いろいろな話型があることを知ったり、自分の伝えたいことに合わせてスピーチの方法を選択したりする児童が増えることを期待している。また、全員が共通のテーマでスピーチすることで、同じテーマでも人によって多様な考えがあることに気づき、自分の考えを広げる機会にもなる。

どのテーマでも、必ず自分の意見や考えを、理由をつけて話すように指導する。スピーチの最後には、聞き手から質問や感想を募る。ただ話す・聞くだけの時間にならないように、両者が目的意識や相手意識をもって取り組める時間になるようにしたい。

② 朝学習や国語の時間を活用したミニ話合い活動

朝学習の時間や、国語の学習の最初の時間などを活用して、ペアでのミニ話合い活動を行う。ペアにすることや、話しやすく意見がもちやすいものをテーマに選ぶことで、全員が参加できるようにする。相手の話を聞き終わった後に、聞き手は必ず「〇〇さんの意見は…ですね。」「〇〇という所が自分と同じ（違う）と思いました。」などの感想を伝えるようにする。そうすることで、聞く力や、共通点や相違点を把握する力を身につけることができる。さまざまな友達とペアを組み、話合いを重ねることで、さらに本単元の話合い活動に生きてくると考える。

5 単元指導計画（7時間扱い）

時	学習内容	指導や支援の手立て（◇評価）
1	・「一年生ともっと仲よくなるの会」を行うことを知る。 本時のめあて：今までの話し合いをふり返ろう。 ・「全員が納得できる結論を出すには、どう話し合えばよいか。」という視点でこれまでの話し合いについて振り返る。 ・単元の目標を確認する。 単元のめあて：みんなが納得できる結論になるような話し合いをしよう。 ・学習計画を立てる。	・学習のゴールを示し、意欲付けをする。 ・議題に近い縦割り活動の遊び決めの話し合いや、これまでの経験をもとに振り返る。 ・話し合いがうまくいった経験とうまくいかなかった経験を思い出すように投げかける。また、その理由も考えられるようにする。 ・これまでの経験を振り返る際には、声の大きさや態度などの形式的なことだけでなく、結論を出すときに困った点など内容面にも着目できるようにする。そうすることで、全員が納得する結論を出すには、根拠や理由を明確にすることや目的や条件に照らし合わせて話合う大切さを感じられるようにする。 ・みんなが楽しく会に参加するには、全員が納得した結論の方がよいことを押さえ、学習の必要性を高める。 ・児童が見通しをもって意欲的に取り組めるように、全体で話し合いながら学習計画を立てる。 ◇目的や条件に応じて、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（発言・記述）

2	・話し合いの議題・目的・条件を確認する。	・目的や条件は、教師から一方的に与えるのではなく、児童の考えを基に決定していくことで、学習に主体的に取り組めるようにする。 本時のめあて：目的や条件に合わせて、自分の考えを整理しよう。 ・自分の考えを明確にする。 ・主張だけでなく、理由や根拠も考えるようにする。 ・理由と根拠が混在しないように、全体で確認したり、個別に声をかけたりする。 ・思考を整理する方法としてピラミッドチャートを提示し、多様なアイデアの中から目的や条件に合ったものを選ぶ際に適していることを伝える。 ・考えをもつことが難しい児童には、自分の経験や縦割り活動で行った遊びを思い出すように声をかける。 ◇集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討している。 【思考・判断・表現力等】（記述）
	・本時の学習を振り返る。	

3	・ 本時のめあてを確認する。 本時のめあて：話し合いの進め方を確認し、気を付けたいことを考えよう。 ・ これまでの話し合いの経験を振り返る。 ・ 考えを広げる話し合いとまとめる話し合いのポイントを整理する。 ・ 考えを広げる話し合いを練習する。 ・ まとめる際の思考ツールを知る。 ・ 本時の学習を振り返る。	・ どのような役割があったかや、進め方などを確認する。 ・ 話し合いのモデル動画（教科書に記載の二次元コード）を視聴しながら、気付いたことをメモするようにする。 ・ 動画の台本を用意し、配付する。メモが難しい場合は、真似したい部分や大事だと思った部分に線を引く形でもよいことを伝え、全員が取り組めるようにする。 ・ ポイントを整理する際は、以下の3つを中心に行う。 ①話し合いの流れ ②それぞれの話し合いで大切なこと ③考えを広げたり、まとめたりするときの表現方法 ・ 教師が提示した主張・理由・根拠に対して、どのような質問をすれば考えが広がるか考える。 ・ 質問の観点を整理する。 ①もっとくわしく知りたいこと ②安全性について ③1年生にとって難しくないか ④6年生も楽しめるか ⑤ルールや実施する上での問題点 ・ 話し合いをまとめる際に使う思考ツール（座標軸）を提示し、利点や整理の仕方を伝える。各軸の項目は、全体で決定する。 ◇思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。 【知識・技能】（発言・記述）
4	・ 本時のめあてを確認する。 本時のめあて：話し合いの準備をしよう。 ・ 話し合いの準備 ○役割分担（グループ） ○ギガタブに主張を入力（個） ・ コラム「伝えにくいことを伝える」について考える。	・ 次時の話し合いに向けて、みんなが納得する話し合いをするためには、相手を尊重する思いをもち、それをどのように表現することも大切だということを理解できるようにする。 ◇言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 【知識・技能】（発言・記述） ◇話し合いの目的や意図を明確にするために、計画的に準備している。 【思考・判断・表現等】（発言・観察）

5 ・ 6 (本時)	・ 本時のめあてを確認する。 本時のめあて：考えを広げる話し合いをしよう。 ・ グループでの話し合いを行う。 (第5時：A・C・Eグループ 第6時：B・D・Fグループ) ・ グループごとに話し合いについて振り返る。 ・ 学級全体で各グループの話し合いについて振り返る。 ・ 本時の学習を振り返る。	・ 話し合いでは、それぞれが自分の主張・理由・根拠を伝えた後、互いに質問し合い、疑問点などを明らかにする。 ・ AとB、CとD、EとFでそれぞれペアグループをつくり、片方が話し合っているときは、もう片方のグループは話し合いの様子を周りで見学する。 ・ 見学しているグループは、話し合い終了後によかった点や気付いた点を発言できるように、見る視点を示したワークシートに記入しながら、聞くようにする。 ・ ペアの友達のよかったところは、後でカードに書いて相手に渡す。 ・ 話し合いのよかった点を全体で共有する。 ・ 結論を出すために決め手となった発言や考え方は何だったかを確認するようにする。 ・ 他のグループの発表を聞くときは、自分達のグループとの相違点に着目して聞けるようにする。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 【思考・判断・表現力等】(発言)
7	・ 本時のめあてを確認する。 本時のめあて：目的や条件を満たし、みんなが納得する結論を決める話し合いをしよう。 ・ グループごとに考えをまとめる話し合いをする。 ・ グループの話し合いについて全体で振り返る。 (各グループの結論・話し合いのよかったところ) ・ 本時の学習を振り返る。	・ ギガタブ上で座標軸と付箋を用いて考えを位置づけしていくことで、目的と条件を満たすか客観的に捉えられるようにする。 ・ 結論をまとめていくときは、互いの意見を否定しあったり、自分の意見が採用されるかにこだわったりせず、グループでよりよい結論を出せるように声をかける。 ・ 各グループの結論と、どうしてその結論になったのかという理由と根拠も示すよう促す。 ・ 話し合いのよかった点を全体で共有する。 ・ 結論を出すために決め手となった発言や考え方は何だったかを確認するようにする。 ・ 他のグループの発表を聞くときは、自分達のグループとの相違点に着目して聞けるようにする。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 【思考・判断・表現力等】(発言)

課外	「一年生ともっと仲よくなろうの会」を行う。(学級活動)	
8	・ 本時のめあてを確認する。 本時のめあて：一年生との交流会をふり返り、単元全体のまとめをしよう。 ・ 一年生との交流会を振り返る。 (個→グループ→全体) ・ 単元全体を振り返る。	・ 楽しかっただけで終わらないように、交流会の目的や条件を再確認し、「話合いで決まったことが交流に適した遊びだったか」という観点で振り返りを行う。 ・ 必要に応じて前時の話合いの際にギガタブで録画した映像を見返し、話合いの仕方が有効だったかを確認できるようにする。 ・ みんなが納得できる結論を出すために大切だと思ったことをまとめる。また、今後の生活のどんな場面で、どのように生かしていきたいかも考えられるようにする。 ◇積極的に単元全体を振り返り、学んだことを今後の生活に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】(記述・発言・観察)

6 本時の指導 (6 / 8 時間)

(1) 本時の目標

○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げることができる。

(思考力・判断力・表現力等 (1) オ)

(2) 本時の学習活動

○後半グループの考えを広げる話し合いを行う。

○話し合い終了後にグループや学級全体で振り返りを行い、よかったところを共有する。

(3) 展開

主な学習内容と活動	指導や支援の手立て (◇評価)
1 学習の見通しをもつ。 ≪学習の流れ≫ ① 後半グループが話し合いをする。 ② ペアグループで振り返る。 ③ 全体で振り返る。 ④ 学習のまとめ	○本時の流れを確認し、見通しやめあてをもって学習に取り組めるようにする。 ○考えを広げる話し合いであることを確認する。次時に、グループとしてよりよい結論を導くために、一人一人の意見に対する疑問点や問題点を明らかにさせることが目的であることを共有する。
考えを広げる話し合いをしよう。	
2 後半グループの話し合いを行う。 議題 ：「一年生ともっと仲よくなろうの会」で行う遊び	○各々が主張・理由・根拠を述べる際は、事前にギガタブで作成した表を提示しながら行うことで、全員が発言したり、聞き手が相手の考えを理解しやすくしたりできるようにす

目的: 一年生と楽しく遊んで仲を深める。

条件: 一年生にも難しくない遊び
一年生も六年生も楽しめる遊び
危険のない遊び

《話合いの流れ》

- ① 一人ずつ意見を出し合う。
- ② 互いに質問し合うなどし、疑問点を明らかにしたり、相手の意見をより理解したりする。

る。

○互いに質問する際は、第3時で学習した「話合いで効果的な表現」を使えるようにする。児童が見てすぐに活用できるように、まとめたものを見えやすいところに掲示したり、机上においたりする。

○第3時で学習した質問の観点を参考に話合うよう促すことで、話合いが活発に進むようにする。観点については、見えやすいところに掲示する。

○質問の観点は、次のようにする。

- ①もっとくわしく知りたいこと
- ②安全性について
- ③1年生にとって難しくないか
- ④6年生も楽しめるか
- ⑤ルールや実施する上での問題点

○質問し合うことで、相手の考えをより理解したり、目的や条件に応じたよりよい方法へ考えを広げたりし、次時の考えをまとめる話合いに生かせるようにする。

○話合いが進まないグループには、掲示物を参考にするように促し、疑問点や問題点等を明確にしながら進められるようにする。

○話合いの流れや時間を意識して計画的に話合いを進行できるように、司会者を立てる。

○発言が少ない児童には、司会者を通して発言の機会を増やしたり、教師が意見を言うタイミングや話し方を助言したりすることで、みんなで話し合ったという実感がもてるようにする。

○話合いを見学しているグループは、見る視点を示したワークシートに記入しながら参加することで、話合いのよい点を見つけられるようにする。

○司会者の役割を見取るために、互いのグループの司会者同士でペアを組む。見学のワークシートも司会者用のものを使う。

○見学者が使うワークシートは、誰でも使いやすく、話合いに集中しながら相互評価できるように、◎○などの記号で記入できたり、メモをとったりできる程度の簡単なものにする。

3 ペアグループごとに話し合いを振り返る。 ・各自で振り返る。 ・見学していたグループからよかった点を伝える。 4 全体で話し合いを振り返る。 ・話し合いのよかった点 5 本時の学習を振り返る。	○話し合いを見る視点は、次のようにする。 ①各自の主張に対する理由・根拠が明確か。 ②質問しているか。 ③問題点を明らかにしているか。 ④解決策を提案しているか。 ⑤目的や条件に立ち返っているか。 ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げている。(発言) ○ペアグループごとに振り返る前に、各自の考えをまとめる時間をとる。 ○話し合いをしていたグループは、自分の話し合いがどうだったかや、話し合いの結果深まった自分の意見をワークシートにまとめる。 ○見学していたグループは、ワークシートの視点に沿ってよかった点を中心に発言していくようにする。 ○ペアの友達のよかったところは、後でカードに書いて相手に渡す。 ○全体でよかった点を中心に確認することで、これからのよりよい話し合いにつなげていけるようにする。 ○話し合いのよかった点を振り返ることで、考えを広げる話し合いは、1人1人の考えをさらに深めることができ、最終的にグループとしてのよりよい結論につなげることができるよさがあることを感じられるようにする。 ○他のグループの発表を聞くときは、自分達のグループとの相違点に着目して聞けるようにする。 ○うまくいかなかった点があるグループは、どうすればよかったかを考えることで、次の機会につなげられるようにする。 ○考えを広げる話し合いをするうえで、大切だと思ったことや気付いたことを振り返るように伝える。
---	---